



新編玉石童子訓  
卷三

1279  
44  
18





入る如く、勢と敵を戦ふ。浩一程、健宗の遊軍を、竹木虎狼、平鬼、黒九郎、豫美、軍配あれ、敢先陣の勝負、各隊兵二百と將て別れて、左の茂林中、吐と嘘と打入る。只是敵の伏兵を、馳せんと東西、二備と乱る。競蒐る。侯儲る。隊の頭人、右の茂林中、和留小十郎、左の茂林中、奈良、八重作、隊兵、約三十名と共、樹間、立頭れて、且戦い、且走れ、虎狼、黒九郎、思ふ、似ざる。敵の伏兵の、見えて、此も擬議せむ。那敷、留と、呼つて、透もあらず。追ふ。登時、義兵の、頭人、正忠と成勝、計畧、其圖、不當と見えて、時分、今ぞ疾敷、乱せと、麾揮、立る程、もあらざ。峯張、木六郎、通能、其隊の遊兵、五六名と進めて、閉戦、圍于、韓錦を、相助けて、鎗輪々と、打振る。敵、二三名、刺殺して、四下と、拂ふ。太舊、敷、突戦、孰、狭く、是、向、向、三、直、武、四、牡丹、兵、休、難、衆、兵、と、共、侶、小、乱、噪、と、通、能、茂、洋、透、も、あ、ら、せ

ぬ、虎、彪、の、勢、群、る、羊、と、逐、ふ、如、く、中、る、小、任、せ、殺、仆、其、苛、三、さ、ら、の、く、慌、々、岸、を、衝、て、思、ふ、も、健、宗、の、本、陣、象、棋、倒、小、付、と、か、れ、共、小、乱、る、を、隊、の、周、章、健、宗、刺、高、と、い、ふ、と、用、合、さ、る、暇、も、な、く、混、雜、さ、る、一、か、後、陣、の、頭、人、也、刀、齋、の、苗、四、郎、疾、四、郎、を、左、右、小、備、で、入、替、て、前、身、敵、を、敷、拂、ん、と、進、む、程、の、後、方、小、發、る、因、の、聲、是、則、別、人、を、も、豫、を、計、り、勇、婦、押、給、の、被、龍、の、鎌、衣、甲、の、脛、着、鉞、打、る、顛、纏、して、腰、小、苛、物、造、の、天、刀、と、跨、へ、る、小、角、の、堅、木、の、棒、の、筋、鍊、打、る、と、挾、と、て、二十、名、の、勇、兵、と、左、右、小、備、前、小、立、し、と、突、然、と、く、敷、ま、て、蒐、れ、の、く、驚、く、健、宗、屈、梁、既、小、備、と、乱、ら、る、也、刀、齋、も、合、期、せ、し、絶、小、兩、隊、を、引、分、て、前、後、の、敵、と、防、け、と、勝、誇、り、た、る、義、兵、の、刀、尖、鎌、と、草、と、交、如、く、勁、風、木、葉、と、拂、ふ、似、れ、始、末、似、ぬ、健、宗、の、千、二、百、の、軍、兵、ら、或、は、逃、失、或、は、敷、ま、れ、搥、敗、軍、を、さ、る、ふ、け、る、小、程、小、左、右、の、茂、林、を、奈、良、櫻

八重作次世和田小十郎正義共敵を誘引て程よ處に踏駐り。正義は腰に吊るる。裏の小石と探合して追鬼を身虎狼二の面と臨て横地と打。修煉錯ど虎狼二眉間を酷敷く破られて一聲呼呀と叫びも果て馬より控と墜し。其隊の雜兵散馬慌々。肩引被逃走。正義は猶逃下り。三十名の隊兵を進めて陣の追う。又奈良櫻八重作敵の頭人半鬼黒九郎と鎗と交て戦ふ程に樵者多へ一箇の賤夫忽然と出て多半鬼の隊の後ろ方より訛り聲と震立てや。殿們の知らず。竹木主のふもさる。館も敗軍をひいて惣頼ふるふ。もとや這首さうら捨て。救ひぬぐるや。喃々と叫ぶ。聲も驚く。黒九郎半信半疑の心後れて闘戦の親も其隊乱れて見え。八重作は。隊兵を回る進めて敷散せ。吹れ。敵の衆兵支難。開が程。後方小敏。夏草の中より兵火燃出。折ら吹來る風のま。其頭を

樹枝の煽りと燃漂りて。還る。路をな。似れ。黒九郎の隊の雜兵も胆を潰し。慌燥して退んと。煙の包れ進んと。前敵の火も焼れ。鎗も刺れ。小鬘と焦し。血塗を逃後。も。雜兵と鋒を倒し。悲乞。降人。成る。も。開が中。黒九郎の稍一方に殺用。て馬を飛して逃す。あけ。八重作。さ。渡留。鎗。縫。股の深。癩。黒九郎の苦。を。馬。と。控。と。奈良櫻の隊兵も走。蒐。と。押。を。被。け。収。這。折。の。闘。戦。を。看。官。心。つ。る。ま。あ。り。方。僅。樵。者。を。多。く。黒。九。郎。が。小。健。宗。の。惣。敗。軍。を。報。け。る。も。亦。夏。草。の。火。を。放。り。も。比。自。正。忠。の。計。畧。を。豫。り。の。便。直。あ。り。情。地。も。奈。良。櫻。を。資。け。し。回。話。休。題。然。れ。亦。健。宗。の。前。後。の。敵。不。攻。殺。れ。て。這。隊。も。既。に。敗。れ。か。孰。軟。く。敵。と。柱。人。猛。は。名。の。鬼。刺。鍼。持。蛇。塚。和。十。六。度。と。失。い。る。者。も。多。く。主。共。侶。不。活。路。と。索。め。て。命。と。免。れ。る。開。が。中。の。館。内。也。刀。齋。端。高。僅。小。馳。と。知。

る者よりけんその隊の小頭飛鳥疾四郎稻妻苗四郎等と罵励しく殿志の  
 退てゆく。當下峰張通能の鎧杖を乞と見て天暗敵やとの隨ふ透ぬらさ  
 名告被て鎧合直進程のあらぬ也。刀齋の乗る馬の鑢面を焼くて内から鎧の  
 尖頭を通能と受流して人交せむ戦ふ程の苗四郎と疾四郎也。刀齋を  
 相援けて左右齊一大刀抜撃して共の通能を敷くも通能是を物とせむ  
 三人を敵も鎧の乱れを精神滋加りて闘戦も久からむ韓錦樵二郎の  
 見越松時八と共侶も走來る通能の左右より競る鬼の勢も疾四郎と苗  
 四郎の克つと思ひ引外と逃るも通能透さむ鎧晃りて疾四郎の胸  
 前も背へ子て罵詆と刺を其間苗四郎の路横ぎりて逃走るを樵二郎追蒐て  
 見ぬ所を殺し後まで來ぬ時八其首を捕せけ。有斯一程也。刀齋を  
 思ふ増る通能の本事も怖れ舌を掉ひて今疾四郎苗四郎の敷くも

回馬と返して逃て去向又敵あり此は何人なるも回でも知るは押繪今  
 也。刀齋が馬を走らんと逃去るを樹蔭より逸早く見ゆと走出ると聲かけ  
 彼八角の棒も也。刀齋の乗る馬の前脚を薙かぬふも堪る人馬も  
 く橙と輓ぶを起も立む亦棒をのり也。刀齋の肩尖を下高の樵半身斜め  
 るも弱くも儘平臥けり。浩處も奈我四郎短平走來て起んと春蠅  
 也。刀齋を縛りて軀を牽立けり。當下通能樵二郎も逃るを追を茲も  
 也。刀齋の既ふも押繪が棒を撻惱されて生拘れを見て歎け不堪也。今日の敵兵  
 るの中。這奴の此を骨も似たり。を女子の爲に軍功の一番牌を落されり。  
 り樵二郎も然と心て共の大局入りのけり。是時敵は皆逃去りて一人もあらず  
 也。和田大江の両將の勝因を揚げて雑兵も遣り大楯の茂林邊る。兵火を  
 餘波のうら減せて軀を其頭も屯る。躬方の軍功を同致す程も奈良櫻八重

作が生拘りる敵の頭人牛鬼黒九郎と首老和田小十郎の生拘竹木虎狼二と幸  
せま押繪も亦館内也刀齋を隊の難兵幸せまて共是日の功と報けりとの  
他米六通能と韓錦樞二郎の撃捕る所の稲妻齒四郎飛鳥疾四郎の首級母と  
実檢せ入れける亦只是是のころに敵の士卒の名あるも名も是日降人あり  
去者四五百名の身は至れり正忠成勝是を檢し功ある者と登壇いさや豫へ今日の  
闘戦を心許る思ひい寡ををて衆は勝り各位の武勇の憑り然れども賞  
罰に已むる所あり魚丸腋子告稟し賞禄の異日沙汰あら猶重  
るの躬方此の金瘡見あるも戦没の者あり然る中も飛鳥疾四郎稲  
妻齒四郎の素是公範の仕る止卒と歎せらる初め大刀自母子の為近江火  
急の使も果して及健宗の為忠あり其後又疾四郎健宗の密意依り阿  
魁寺我隊に紛れ入りませし時八重も搦捕れを辛くと脱去りし這

方の虚実を健宗に報知らせるべし有斯くの做事所悪と決する者も  
然りとて恩義を知りしは是をて今日の敗軍也刀齋の從者齒四郎疾  
四郎共侶殿りて陣歿あり彼逃脚の蚤り苛之隈八比沙礫の  
中も小粒銀といふも過りしは然らばと理を推して送りし  
解示を褒貶細やえければ是をて多く樞二郎八重作押繪奈我四郎時八短  
平老に至るまで耳新る心地と共感嘆ありけ這時酷暑稍去て下晡ある  
や和田大江の面將諸隊と合せて一箇の散を列を正しく密々生捕見  
と降人をも牽せ阿魁寺へかゝる軍装の物々を見んと里人壯家なる老  
弱男女或名放路備門真道集り過り果るまで目送りて比自憑り思ひけり案  
下重説位六郎健宗の思ひも似る敗軍の辛く命を免れて鉞持隈八鬼刺時  
三巻以下の頭人共侶の鎭野の館に逃かして軌赤橋と曳せ四門を鎖鎖はる寄





まづ天女

まづ

まづつき

五十一巻下川巻二九

文楽堂蔵



健宗也  
 あく枉津天  
 女小拜見と

たづね

五十一巻下川巻二九

文楽堂蔵



不さ母は髪かみ髻まげ左右さうじやう不さ從じやう不さ兩りやう箇かんの了りやう髮かみあり衣裳いさうじやう官くわん録ろくと音ねとく長柄ちやうへいの段だん羽うと執しやくち  
け。當あ下げ天てん女にょ飄ひやう々々然ぜんと松しょうの梢しやうと降かる巻まき石いしの上のうへ立た在ざいる顔かほ東園とうえんの梅うめ櫻おうの如ごとく  
腰こしの西せい湖この楊やう柳りゆう似にたり正ただ是これ天てん武ぶの帝ていの御み時とき不さ吉きち野のの離り宮みや不さ天てん降かる去さ即すなはち舞まひ  
奏そうける天てん津つ少せう女にょるる其その楚その襄じやう王わうと慰なぐさめて朝あさ雲うみ暮くれ雨あめと詠えいたる巫まじ山さんの神かみ女にょあり  
まと思おもふ可べの容よう顔かほ婢ひ約やく現げん人にん回かい不さの所ところ所ところ壁かべと取とる不さ物ものを健けん宗そうと胸むねを渡わた  
あて駭おそ怪かいとけふ似にけり心こころと鎮しづめて猶なほ相あ隨ずい不さ魂たま魄はく既すで天てん外がい不さを覺おぼえ恍惚くわうこと言こと  
向むかむせあられ思おもふ如ごとく信しんと疾はや視みて四よ下げ不さ响ひびく聲こゑ高たかや不さ妖まじる野の狐こ奴に我われ敗たい軍ぐん不さ  
樂がくま軍旅ぐんりよの工くわう夫ふ不さ寢食しんじやくと忘わする不さ他事たじも獨ひとり坐ま幽ゆう栖せの虚こゝろ不さ滿み入いり何事なにごと做する  
まきまら然しから本ほん事じと見み女にょと罵ののり身みと起おこと床とこ不さ建たる弓ゆみと前まへを搦な合あひり  
蚤こく立た向むかへ天てん女にょの噪こゑと微こ笑わらひ愚おろ健けん宗そう我われ豈いか狐こ狸りの妖まじ怪かいる當あ家け不さ舊ふる由よし縁ゆかり  
あ枉かた津つ神かみ女にょと知しらるるむく汝なんぢ着かき大おほ刀やいばの少すくり時ときも深ふか心こころ敬けい禮らい叮てい嚙ごうを幣へい

帛さ賻たう日ひのるれ我われ亦また其その諸願しよげんと果はる  
よ。深ふか心こころ祈いの禱たうと見みかもの甘あまさるる如ごとく遂つひ不さ神かみ威いの衰おとろへ荒ある廟ひやう社しゃの獨ひとり存ぞん  
今いま不さ至いたる二十餘年じふにじゆねん身みの蜘蛛くも網あみ不さ包つつめて月つき日ひと共とも不さ蘊うんる塵ちり芥かい不さ佛ぶつ不さ者しやる  
不さ和わ郎らうが昨きの日ひの敗軍たいぐんの大刀おほやいば不さ大おほく驚おど憂うれひて一室いつしつ不さ屏びん居ゐる只ただ願ねが我われ神かみ號ごうと唱な  
丹精にたんせいと凝こる不さ默もく情じやう一晝夜いちしゆや不さ及およぶ我われ亦また喚わ起おこされ來き迎むかへる不さ世よ話わ不さ  
不さ云い神かみの只ただ人ひとの信しんと不さ威いと増ま而して不さ明あ日ひの軍陣ぐんじん不さ神かみ通と力りきと施ほく和郎わらうの  
為ため不さ彼か剛敵ごうてきと血ちをせよとまぬけりものと甚いた麻あと不さ惑まどる狐こ狸りの妖まじ怪かいと思おもへる  
あろ似に不さ袖そでと拂はて去さらんものと妙音めういん殊勝しよせうの示現しじげんの奇特きせき不さ健宗けんそう疑ぎ惑まど氷解ひやうかいして且かつ  
悔くわい且かつ畏おそると弓ゆみ前まへ投な棄す不さ庭てい面めん走は下くだる合あ掌てうの頭かぶを拍たたき答こたへる俗眼じやくがん神かみ女にょと疑ぎ  
ひまると敬禮けいらいの儀ぎと夕ゆふのるる漫まん罵のの辱をし後悔くわいごう何なにと及およぶ願ねがふ今いまも不さ懸か念ねん  
納受なうじゆの神德かみとくと垂たる我身われみと守まもる不さ權けん且かつ庭面ていめんを立た甘あまさるる最もの惶おそれ

下  
八  
大

誘く。とむらふ連の詩。ては。天共然を。領て。書院。ふら。登れ。又。西。箇  
の神童女も。従之。其。左。右。在。り。當。下。健。宗。の。連。の。拍。鳴。と。茶。進。の。果。子。  
と。諸。婢。毎。と。喚。立。と。天。女。急。不。推。禁。め。否。と。我。の。火。食。せ。も。況。月。水。流。れ。諸。  
婢。毎。と。何。の。女。和。郎。願。の。あ。ら。疾。告。る。と。お。れ。の。健。宗。阿。と。の。額。衝。  
来。て。且。の。や。在。下。年。尚。少。け。れ。兵。の。學。の。日。久。才。足。り。半。と。即。め。食。食。る。癖。あ。れ。  
也。昨。日。の。閉。戦。利。あ。ら。ず。頼。涯。の。頭。人。三。名。竹。木。虎。狼。二。年。鬼。黒。九。郎。館。内。也。  
刀。齋。の。敵。の。為。し。槍。あ。せ。れ。又。飛。鳥。疾。四。郎。稻。妻。岳。四。郎。陣。歿。と。て。千。百  
の。士。卒。残。少。損。れ。て。二。の。足。ら。ざ。る。有。斯。ハ。明。日。の。鬪。戦。の。可。し。と。同。  
へ。神。女。の。袖。搔。合。せ。善。哉。と。秘。心。と。知。る。者。怨。少。我。既。和。王。と。祐。け。彼。剛。敵。を  
征。る。上。の。焉。兵。の。少。由。え。や。遮。莫。敵。の。生。拘。れ。る。頭。人。等。と。惜。思。れ。る。雖。十。重  
二十。重。の。死。囚。牢。の。籠。置。と。我。神。力。と。施。と。必。や。救。半。と。明。日。の。役。の。元。人。と。靈。の

物と合らり易ら。と。た。り。の。一。徑。驗。と。見。せ。猶。疑。る。と。の。あ。ら。と。ひ。左。右。と。見  
か。ら。と。必。や。枉。津。日。枉。通。氣。と。汝。等。の。疾。か。り。あ。て。我。神。兵。の。固。様。と。言。と。傳  
へ。て。徇。知。各。よ。と。も。あ。れ。と。枉。津。日。枉。通。氣。兩。神。童。女。の。應。も。果。ぞ。身。起  
あ。て。庭。の。閃。り。と。少。時。聲。聲。廊。倚。け。措。と。駭。と。合。ら。る。衛。建。て。身。と。跳。せ。中。天。へ  
外。と。見。え。の。現。也。往。方。も。知。ら。ざ。り。健。宗。又。更。敬。馬。呆。れ。て。瞬。せ。一。需。時  
某。方。と。向。上。と。貌。と。改。め。天。女。向。ひ。て。那。兩。箇。の。神。童。女。年。尚。三。五。不。足。ら。ざ。る。不。思。不。可  
増。と。出。没。無。量。何。と。の。神。や。と。問。ふ。天。女。の。答。否。と。他。の。我。分。身。也。假。其  
名。と。呼。做。と。枉。津。日。枉。通。氣。と。い。へ。の。素。是。一。體。分。身。也。要。あ。る。時。是。と。使。の。要。と  
けれ。退。け。と。本。不。復。ら。る。辟。言。の。形。と。影。の。如。異。神。也。あ。ら。が。か。と。鮮。示。と。詞。の。訖。と  
但。見。鳥。雲。猛。可。起。り。疾。風。颯。と。電。光。と。霹。靂。一。聲。轟。然。と。雲。中。は。是。物。あり。  
甲。冑。と。武。者。幾。百。千。と。弓。箭。器。械。を。挾。と。降。來。と。庭。面。陔。と。羅。列。と。當。下。天

九

女身を起り。蒼廊の立並に集合する神兵と列々と見て。汝達上は違ぎと早東  
 の到着最。明日健宗の鬪戦を助て敵を叩かせんとす。汝達力を勤く敵を敷て  
 功を奏せ。敵則和正忠大江成勝の首を峯張通能和田正義及韓錦奈良様  
 其女弟押繪等に至るまで心正く武藝あり是を倒るの容易から。尙克せむ失わら  
 ん。汝達明日健宗の出陣の時分を違ぎ彼戰場の来會せ。其の告示を告せ。そ  
 り招き寄るるれ。臆と示せ。神兵も阿とる。心も果を集る雲を身を  
 包く。忽馬と空の舟り失けり。然れ健宗の光景あり。故驚はまも呆れて身を  
 縮してありける程。天共徐の席を還りて。又健宗示す。今日敵の寄來より。雨  
 障りあり。故に明日の必し出る然れ。明日も朝雨あり。巳の時候より。雨霽齊ん  
 和主も霽齊ると俟て。出陣せらる。又大掛の茂林邊に敵軍の撞見。其  
 折忌服る。雜兵六名。注連繩布遠り。腰輿を早せて。先陣を交て。敵を泣

我其神座お出願と彼剛敵討滅え。士卒の生示し。明日戰場の  
 従者各我神號と唱て敵と敷る。勝者も。折る。我身要る。  
 明日復目おを掛る。げれ。身と退り。背後の壁を倚を見。彼身の  
 壁を滅入て。迹をあらざる。健宗愕然と。夢の覚る如く。且怪と。且畏と。  
 壁を對して伏拜々。黙禱と在ける程。點燭時候より。近習も。燈を引  
 提て。來よける。健宗見おから。後堂お退。奴々の那首を。尋る。和侍  
 婢毎の告る。知りぬ。の時。大刀自の。晝夜の祈禱。断食果て。既。一室と立。坐。粥を  
 啜りて在り。健宗敢敬。馬を。嚙果る。俟て。軀を。閑室。請迎へ。額を。合せ  
 聲を。低めて。天女出現の。喜の。趣。示現。教諭の。神託。と。送。り。告。が。大刀。自。其。願。を  
 び。敬。馬。の。一。び。の。妙。ひ。て。奇。へ。こ。む。り。の。四。下。と。見。法。を。答。る。中。原。來。我。心。願。を。

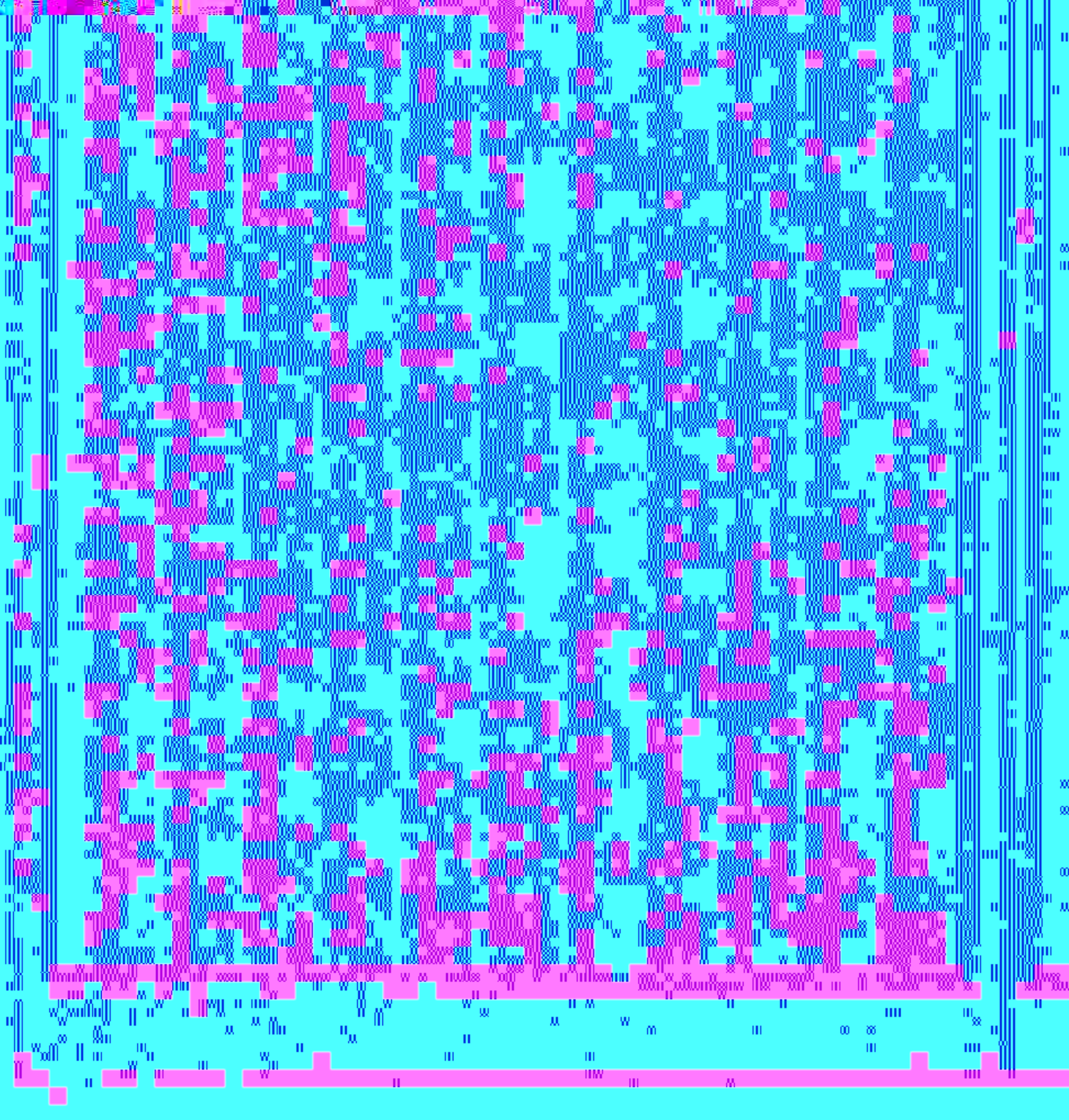
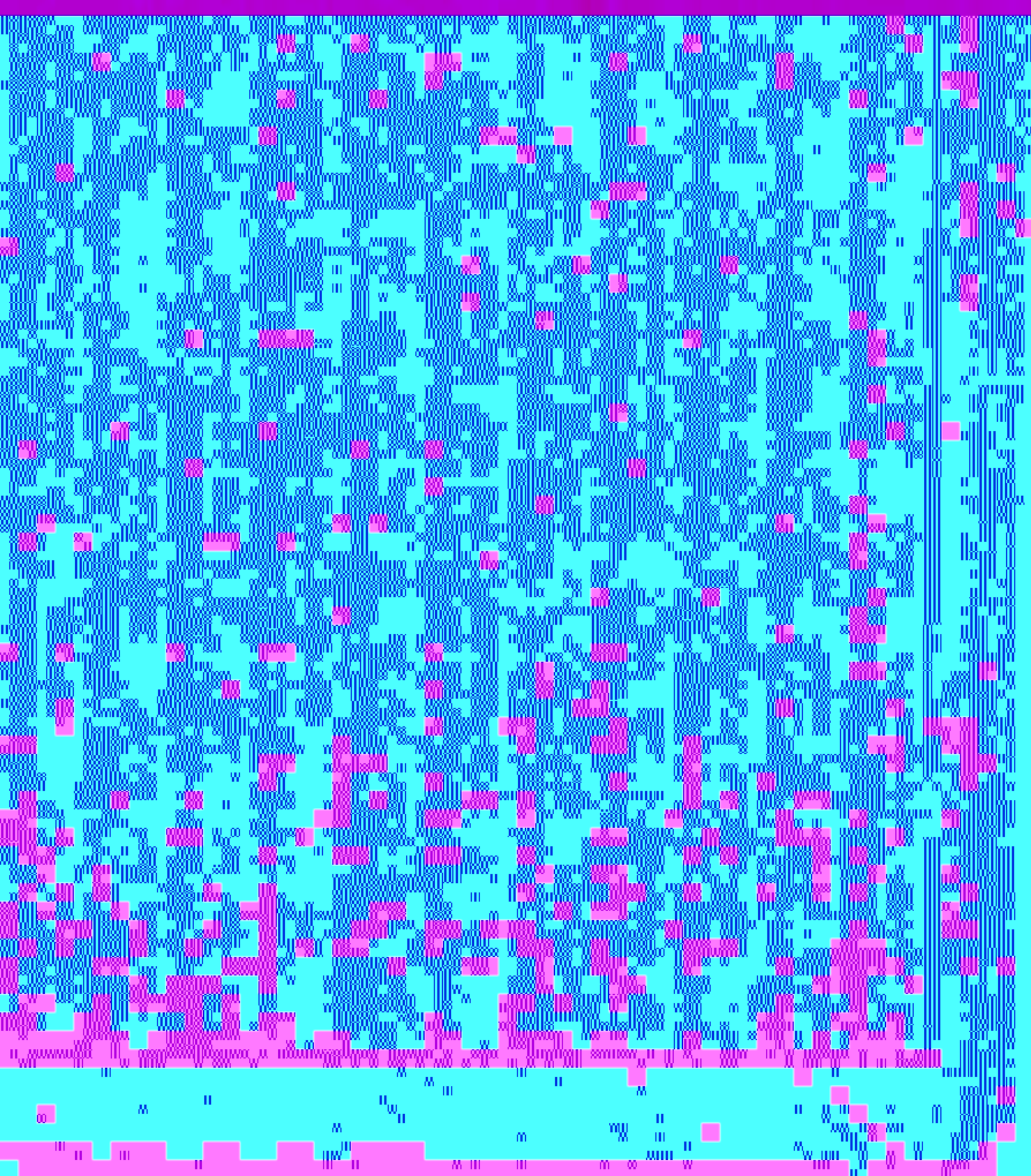
所るる下。我身少り。時故めて。一修験者の薦め。任して。枉津天女と郊外小祭  
アと祈らるる。見らるる。一。飛射世と去る。あひ。後。又願。え。と。ま。け。れ。る。も。も。悔。り。と。  
始。も。似。ま。る。り。け。る。故。欣。昨。日。和。殿。の。敗。軍。の。神。の。崇。り。あ。ら。ま。る。と。思。へ。悔。く。惶。ふ。躬。  
一室。屏。居。断。食。祈。禱。の。甲。斐。あ。り。け。ん。然。る。示。現。と。崇。る。上。今。さ。ら。不。疑。ふ。と。い。ふ。を。  
頭。人。等。不。拘。示。して。明日。開。戦。の。准。備。と。い。は。れ。何。と。躊。躇。と。あ。ら。ま。る。と。言。語。急。迫。鮮。  
示。せ。健。宗。有。理。と。羨。欽。ひ。て。當。晚。鬼。薊。鉞。持。持。の。諸。頭。人。等。老。黨。有。司。近。  
習。ま。で。采。比。目。口。集。て。枉。津。神。女。出。現。の。其。託。宣。の。掲。焉。と。言。詳。小。告。知。ら。せ。  
明日。の。出。陣。の。箇。様。を。如。此。々。々。と。い。は。し。め。し。め。の。指。揮。細。く。し。れ。執。飲。飲。ひ。勇。気。を。養。ひ。秋。  
樂。と。稱。え。退。り。て。准。備。不。他。事。の。明。を。遅。し。と。俟。り。ける。然。る。程。小。和。田。大。江。義。  
士。等。の。當。日。の。開。戦。思。ふ。倍。て。勝。利。十。分。の。り。敢。驕。れ。る。あ。ら。ま。る。と。士。卒。と。率。ひ。て。  
降。人。と。生。拘。兒。と。牽。せ。る。徐。阿。難。寺。小。か。の。を。金。瘡。兒。と。勒。り。人。馬。と。鶴。生。拘。兒。

敵の頭人竹木虎狼二牛鬼黒九郎館内也刀齋との。檻。敷。は。と。降。  
人。等。索。と。饒。と。去。り。と。願。者。留。り。し。む。欲。する。者。其。意。不。任。せ。り。け。れ。軍。兵。  
弓。く。る。る。上。東。西。の。野。武。士。浮。浪。人。遊。民。の。至。る。も。其。義。感。徳。と。莫。か。て。走。  
鳩。る。者。少。う。ら。ぬ。純。一。旦。二。日。の。程。着。到。千。餘。名。の。り。け。る。事。の。幸。あ。る。足。の。と。る。と。  
魚。丸。の。實。母。垣。衣。の。女。僧。周。晋。の。日。住。持。閑。廂。和。尚。の。趙。心。李。彦。等。と。商。量。し。て。  
老。實。る。沙。弥。道。人。を。信。濃。迎。遣。し。け。れ。周。晋。比。丘。尼。大。法。住。寺。より。彼。人。々。伴。れ。て。  
昨。日。来。着。し。て。魚。丸。の。子。舎。不。在。の。義。士。等。の。恩。義。と。感。悦。し。て。勝。軍。と。壽。祝。する。文。言。  
け。れ。省。て。盡。く。看。官。宜。く。猜。ま。下。閑。廂。和。尚。素。も。思。慮。あり。周。晋。比。丘。尼。の。幽。  
栖。と。尙。敵。不。知。れ。る。奪。捉。る。の。り。あ。ら。ま。る。と。詰。む。故。使。遣。し。て。母子。を。尋。ね。し。て。  
なる。其。事。の。顛。末。の。前。回。の。文。と。照。し。と。知。る。下。問。話。休。題。有。斯。程。正。忠。成。勝。通。能。  
等。の。義。士。勝。軍。の。次。の。日。小。徑。小。鋪。野。不。推。寄。て。討。果。さ。ん。と。議。考。程。小。雨。降。り。只。

得黙止らる。詰目も雨降れども已の比及ふ齊然然らる。一十餘名を  
隊に分ち。韓錦縦二郎奈良櫻八重作和甲十郎と先鋒の頭人として勇婦  
押繪と見越松時公を後陣とす。又正忠成勝通能と共三騎の鶴脛を益郎  
鴨脚短平等と左右に従て。二隊の在り齊を整とて列の程馬の足極早ゆ  
あつた。木牌出る。又是一昨日の戦場の大旗を推し。然れ又鏑野兵  
郎健宗の天女の示現小違とて。殘兵三百餘名を従へ。先と着る程は前名  
敵小擒せられ。竹木虎根二平鬼黒九郎館内也刀齋等三名を忽然とかり  
あふけり。あつた。訝と先其故と詔る。異口同様の答る。臣も命運全かり  
敵の為小擒せられ檻の獸なり。免れず思ひ。今朝も檻の鎖破れて又  
自由する。けり。守護の雜兵の際に脱出。四下を見らる身甲あり。大刀  
さあられ身帯。連立。出て見れ。答る者も。あつた。覺き。瞬間。あり

参ひひた。告る。教馬。健宗の思。ま。當ら。鳴。と。開。疑。ふ。も。あ。天。女。冥。助。る  
らん。か。這。里。中。か。奇。事。あり。狂。津。天。女。の。條。々。詞。短。く。解。示。せ。黒。九。郎。也。刀。齋。  
虎。狼。二。平。の。駭。嘆。と。神。の。祐。感。悦。を。然。れ。届。染。鐵。持。等。以。下。の。頭。人。有。司。ま。  
の。心。思。ひ。け。是。小。も。健。宗。の。跡。虎。狼。二。也。刀。齋。黒。九。郎。等。を。先。鋒。に。加。え。く。  
その。身。へ。則。昔。之。隈。八。有。司。近。君。等。を。従。へ。て。二。の。隊。の。在。り。隨。即。天。女。教。小。依。り。腰  
鉾。を。昇。り。出。陣。の。路。次。を。連。ぬ。め。程。小。又。口。大。掛。の。茂。林。邊。也。義。兵。の。先。鋒。小。逢  
けり。當。下。義。兵。の。先。鋒。の。頭。人。縦。二。郎。茂。洋。八。重。作。次。世。小。十。郎。正。義。等。の。思。ひ。も。猶。小  
勢。多。敵。の。先。鋒。を。見。て。此。も。擬。議。を。鶴。脛。鴨。脚。と。共。小。隊。兵。を。找。る。程。小。又。見。る。敵。の  
頭。人。等。の。背。小。挿。る。長。幟。小。竹。木。虎。狼。二。等。を。寫。し。る。も。又。牛。鬼。黒。九。郎。館。内。也。刀。齋。  
と。の。姓。名。を。讀。れ。と。韓。錦。弟。兄。正。義。等。の。訝。り。冷。笑。ひ。て。彼。奴。等。の。目。の。間。戦。小  
生。拘。り。今。も。猶。阿。難。寺。を。檻。裏。小。籠。措。き。い。ふ。と。那。里。の。在。り。是。も。亦。健。宗。

敵を感<sup>かん</sup>ず  
雷の虎狼<sup>ころう</sup>  
絶<sup>つ</sup>つ五六名<sup>ご</sup>  
とくろの<sup>の</sup>小物<sup>せうぶつ</sup>  
時速<sup>ときじく</sup>一件<sup>いけん</sup>  
乱<sup>らん</sup>一<sup>いつ</sup>の<sup>の</sup>わ  
あらま<sup>の</sup>即共<sup>すなはち</sup>  
狂<sup>きやう</sup>見<sup>み</sup>余<sup>あま</sup>名<sup>な</sup>見<sup>み</sup>  
返<sup>かへ</sup>る<sup>る</sup>列<sup>れつ</sup>御<sup>ぎ</sup>  
志<sup>し</sup>も<sup>も</sup>勇<sup>ゆう</sup>  
折<sup>お</sup>れ<sup>れ</sup>或<sup>ある</sup>の<sup>の</sup>水<sup>みづ</sup>  
天<sup>あま</sup>さ<sup>さ</sup>自<sup>みづか</sup>雲<sup>ぐも</sup>り  
の<sup>の</sup>殺<sup>ころ</sup>ふ<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>  
頭<sup>あたま</sup>人<sup>ひと</sup>蛇<sup>へび</sup>塚<sup>つか</sup>  
共<sup>とも</sup>侶<sup>りよ</sup>の<sup>の</sup>隊<sup>たい</sup>行<sup>ゆく</sup>  
風<sup>かぜ</sup>小<sup>こ</sup>搏<sup>つか</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>和<sup>わ</sup>  
稀<sup>まれ</sup>々<sup>々</sup>然<sup>しか</sup>れ<sup>れ</sup>ば  
大<sup>おほ</sup>江<sup>え</sup>杜<sup>つ</sup>四<sup>し</sup>郎<sup>らう</sup>  
良<sup>ら</sup>櫻<sup>おう</sup>八<sup>はち</sup>重<sup>じゆう</sup>  
進<sup>しん</sup>退<sup>たい</sup>自<sup>みづか</sup>由<sup>ゆ</sup>  
四<sup>し</sup>郎<sup>らう</sup>末<sup>ま</sup>六<sup>む</sup>名<sup>な</sup>  
遠<sup>とほ</sup>く<sup>く</sup>目<sup>め</sup>今<sup>いま</sup>敵<sup>てき</sup>



今程お這日の阿甦寺に留守ある。防守松煙齋李彦と杵見道趙心。思ひかけり  
狂風お躬方の安危いふそとて得ふ心計りなれ。遣置れし軍兵三百名に従ふ  
るもあまきある時。兩廂和尚の授へる避風の神護符を旗竿の梢に括着て。并に真光  
推建の連り路次とて。中実の神符擁護せし。然る風障の多く十餘町來  
ゆ程。果しく成勝正忠の軍作時。奈我四郎短平と共に。健宗の勢を捕籠  
られて。闘戦危く見え。李彦趙心此の擬議せし。新隊を找め前を。咄と嘯て。投崩  
其健宗の左右。近習の社。四面を躬所と射せし。健宗是を舌と掉ひて。下  
中。似ざる。日の敵の射る。前を回され。鐵持隈へ。鬼前苛す。或は腕の外を傷れ。或は太股  
前を受へ。矢を濺と。乱噪を成勝正忠の軍作。枯き苗の雨。逢ふ威勢勃然とて  
透も。中を。時。奈我四郎短平も。新隊の中へ。入り。敵を。數者。少か。ね。健宗。喜見。心  
難て。捨報。鳴く。逃走。主將。少ら。苛。三。隈。八。命。を。惜。む。心。一。致。躬。方。と。盾。を。逆。脚。と

あて逃る追敷も成勝正忠李彦趙心等の諸頭人。程お追捨て集ふ躬方を  
俟て存の當下。成勝正忠の軍作。趙心より向いて。嚮ふ敵の陣中。小怪の少女の頭を。極  
風を起し。其奇事とて。出れ。李彦趙心駭嘆して。開き。必妖怪とん。就て。留守。奇  
事あり。檻龍措れ。生拘兒。竹木牛鬼館内。を。穿。え。敵頭人三名を。檻と破り。逃  
亡する。并に知る者のあり。是も亦妖怪の所為。あら。あら。む。只。幸。な。兩廂師の授  
さるあり。秘符と旗竿の梢に貼あり。極風遂に鎮り。和君も。校。は。是。を。思。ふ。一。早  
敗軍。是。非。小。及。び。久。後。備。志。い。い。ま。る。成勝正忠の軍作。皆駭然と。感激。と。これ。史  
思合。ま。御。敵。の。小。幟。小。彼。生。拘。兒。竹。木。牛。鬼。館。内。の。姓。名。見。え。と。一。切。の。事。が。ら  
素原。來。他。も。逃。亡。て。今。朝。も。敵。の。陣。中。に。在。り。を。知。ら。り。と。異。口。同。様。を。る。わ。ら  
風の。為。に。離。散。ある。躬。方。の。雜。兵。三。百。名。建。る。義。兵。の。旗。を。見。て。漸。次。小。集。ふ。ま。け  
ま。も。峯。張。通。能。留。正。義。韓。錦。樅。二。郎。押。給。も。の。ふ。ら。ひ。ん。見。え。と。權。且。他。も。と

俟程不只既西瀾人皆疲れて且餓之健宗二公亦其度難之憶不  
韓錦兄妹和山峰張共命免れて既小寺かへりて争く退らぬと季彦趙心  
のふより成勝正忠八重作も只得る説小健宗の強兵五百と従て季彦趙心  
と共に何魁寺へかへりて介程不韓錦樞二郎藤洋和山十郎正義の御向の猛風  
吹惱されて殆難及及び争く争く神表と檢投棄て敵の雜兵も争う交り二要時虎  
口免れ小館内也刀齋小見され勢の爲に捕圍れて免果へりて樞二郎  
も正義も武勇の覚ある者され近之敵と幾十名拵拵拂々々先途と戦ふ程不敵  
の頭人既塚直武四郎和十六牡丹若隊兵を従走加りて捕捕人と競ふわく義士を  
援る勇婦在り是則押繪之跟踏く脚踏鳴群立敵後より復角の棒とて敵  
仲難拂は是も噪敵の衆兵用麻を割て入る押繪の援便を爲る樞二郎正義  
共一方と殺脱て走り思ふも敵看の餘る勢をれ所も突も左右も脱果

づもあつたけ有斯一程不峯張采六郎通能の御向の猛風と難路備る夏  
草の敏される中伏艱れて憶る時と程不忽地人々叫ぶ聲と争うや不近  
くと朦朧る透見れ韓錦兄妹と和山十郎正義が敵の勢を柱り且闘戦且  
退未也通能是と見てより奮然と身を起し是時争も失ひけり前令  
拵克引て敵に向て標と射る前局違つて和十六牡丹丸兎の副緒と頭子と射削て  
兎の後さま小撲と隊主の鎧と踏外と馬より橙と落り其隊の從兵驚馬鳴  
走れる馬を牽駐せ牡丹五と杖起さすも程不もあつた通能の射止る前令也  
刀齋直武四郎共不落瘡を負り其隊の雜兵辟易と乱噪と和山正義樞  
二郎押繪等の血刀打振殺拂ふ通能も亦弓投捨て大刀拔鬚跳して雜兵を斫  
伏て和山韓錦押繪等と俱お困と殺脱て直走り走る程不猶且追來敵の頭  
人竹木虎狼二牛鬼黒九郎等新隊を找め近づく正義争く見たり腰不果



囊より一箇の小石を探りて。寛びて定む礮を構へて。投る牛鬼黒九郎の片頬を痛く  
うち傷らる。齒を欠け口より血を流し。仰反す。是を驚く虎狼と。二隊の徒兵  
胆を冷し。皆しく找難うけ。其間義士勇婦。又復連り。去る程。去る一餘の溝  
川。其廣一丈。素樸二本を投渡し。僅に橋をたす。當下通能正義樵二郎  
押繪等。共侶を向ひ渡ら。その橋を。儘争。曳舟。當下虎狼。黒九郎。隊を  
將て追蒐。悉く既。橋を渡り。程。又正義の打坐。投る虎狼。左  
の眼を傷ら。落馬をうけ。あも長追の外。思。黒九郎。口中の疼痛。堪  
隊兵。虎狼。二。勦。馬。枝。乗。皆。共。侶。退。見。苦。光。景。入  
然。張。和。田。錦。押。繪。等。目。是。を。見。て。憶。ま。笑。ひ。を。忍。び。て。足。を。後。安。れ。脚。不  
信。と。程。狂。風。の。稍。和。た。て。天。既。晴。れ。も。い。く。迷。ひ。け。け。も。官。道。不。差  
と。見。れ。去。向。の。茂。林。の中。暴。言。小。社。あり。権。且。這。里。憩。ん。と。皆。共。侶。立。ま。

兩扉の用にて在る裏面より高座のよりと神像。佛像。本尊。め。た。る。若。の。わ。た。り  
網。代。天。井。の。雨。漏。れ。且。敗。る。回。り。紙。の。蜘蛛。網。天。幕。不。似。け。況。板。廣。桁  
朽。て。印。も。狐。の。足。跡。又。外。面。石。燈。籠。歌。に。立。石。と。失。ひ。老。る。杉。の。幹。小。大  
は。釘。を。幾。箇。打。入。る。妬。婦。の。所。為。を。思。ふ。と。思。ふ。と。言。回。ん。个。分。れ。義。士。勇  
婦。尻。打。掛。て。憩。ひ。居。り。開。中。和。田。正義。と。樵。二。郎。押。繪。身。受。す。金。瘡。五。ヶ。所  
三。ヶ。所。あ。ら。ぬ。れ。通。能。の。懐。る。藥。龍。の。仙。丹。此。を。分。ち。て。三。勇。女。の。瘡。塗  
ら。し。已。も。聊。嘗。試。る。瘡。立。地。不。血。と。止。む。各。其。の。疼。と。覺。る。饑。を。腹。に。飽。満。し  
心地。清。爽。さ。り。か。共。敵。陣。の。奇。事。と。以。て。驚。腰。輿。の上。立。坐。る。少。女。幻。術  
あ。者。其。做。も。奇。怪。る。且。前。日。の。闘。戦。生。拘。る。敵。の。頭。黒。九。郎。也。刀。齋  
虎。狼。二。名。も。今。日。健。宗。の。隊。在。り。我。們。を。數。す。ま。る。怪。む。く。あ。ら。ぬ。か。と  
公。甲。一。語。二。語。を。譚。て。在。り。程。景。稍。敬。て。遠。寺。也。鶴。鳴。也。晡。時。の。鐘。也



々然。其春先小と皆立出てもとて百歩を過ぎと見れば左の方小廣ゆる盆池  
 ありて前向の岸小蓮よく葉と布花を吐きまを々風の最涼なる信方の岸小箇の賊婦  
 敗る軍衣と洗ふも通能も歩む住む件の賊婦と呼んで居ても婦人言向我門の  
 軍敗れて阿難寺小還る者然るを迷ひて官道小出で這地何と喚做せると向小櫃二  
 郎も共小尋う我の白猪の人氏れどもこの這頭とも知らむ方僅憩ひて後方堂  
 舎酷く荒らうも本首尊るはあらはれり故うもはまきやと向小問小賊婦の軍衣を  
 洗果て絞りと鹽もち納て被りて拭くも拭くも答る中う原来刀袷們的部領の腋  
 子と補佐あぬ義士達をたまたま。這里もして阿難寺の二里半許もゆるる。這地り  
 部領の近郊も能與院と喚做した村落もほり昔の能與院と云梵刹の寺料  
 ろりける寺類廢ちりしもの今漸次小荒果ゆる然れも憩せぬい荒社昔の  
 能與院の境内を時の住持の勸請をける辨天堂のりんとこの下に見る之聲を

低めて又のま。世のい。鐘野殿の母君る大刀自御其の少り時。城心  
 の大なるの射主の壁をまに憎し思ふ男女の兇阻もあはれ殺されて愉快  
 とある程小料小數り脚の悪頭院小説惑るるものと黒闇天女と祭のふ勸請の  
 地の方位も能與院も辨天堂も宜かるべしと示さるるその堂舎を標本傳と  
 辨才天の尊像と這池底小推枕也其回新小造せる黒闇天の木像と駒と那社の  
 推居て控津天女と稱せらる能與院の住持是を歎いて愁訴屢るるのりいふ  
 まで聽るべし及て坊料を召放され刺寺と追れる住持の老僧怨の堪ね立去むと  
 縊おりの然れ沙弥小僧も各々離散く其寺類破るるかそを比り大刀自御  
 昔彼悪頭院を控津天堂の別當推登彼身も深信懈るる日暮春小丹精と  
 抽られや諸願成就せること良人範射の主君る武茂王とも兇阻か武茂  
 竟小心乱れて淫酒小馳り政事小荒と自滅く其家亡家臣鐘野範射小本

領職事と奪れ。開も黒闇天の故も所依是を知る者あるま。經の所云黒闇  
天の辨才天の女弟の辨才天の人の福と授け黒闇天の禍と與ふ然るも天刀自是を祭  
す。隱匿の情願も果しむるに任せられぬ。天神地祇の忌嫌せぬや。範射主甘羅  
の郡司も作り登りて幾程も。家臣の為に枉死あり。又彼惡頭陀の身も黴癩の患  
疾も来て全身都て腐爛れて生るるも自骨も作りて道路に命終れり。天刀自是も  
鬼胎を抱いて枉津堂に棄て祭るを信る心絶果れぬ。範射既の世と去りて。又怒  
べりしも。其身郡司の母あるも。又願ひはもるに任せられぬ。黒闇の枉津も思ひもあむ。忘る  
年と歴りけるも。日健宗主の敗軍も。大乃自大く駭怕れて枉津天女の擁護も。因む  
冠と滅しがさるべし。思ひ起り。又さらし黒闇天を祭り。女黒闇の枉津天女。舊縁  
援れ出願して。健宗主と助へ。然れども。それ那堂内も。枉津の木像あり。さるる。鏡  
野の館も。飛去て。健宗主の為にも。猛風も起り。今日軍も勝せり。さるる。奴家言

の偽る。那里の社頭も。杉の幹も。打釘も。見ても。知りぬ。當初。大乃自御母  
は。黒闇天を祭るゆ。由て。如婦も。さるる。知りて。丑の時。参りて。自ら。外も。杉の木  
負し。ち。其。照。据。ゆ。ゆ。と。言。詳。説。論。其。通。能。也。謝。し。く。は。す。通。愛  
た。和。女。郎。の。才。幹。言。皆。我。為。小。神。益。也。る。れ。も。疑。し。む。る。は。も。た。ぬ。二。郎。を。共。小  
の。さ。る。る。如。其。黒。闇。天。の。人。の。造。り。木。像。も。小。神。也。と。健。宗。の。陣。中。に。在。り。て。風。を  
起。し。名。を。の。ま。へ。信。か。り。と。詰。る。賤。婦。也。を。刀。祢。達。曉。め。ぬ。ま。や。非。情。無。心。の。物。也。  
靈。聖。の。れ。故。ま。ま。の。當。唐。山。の。故。事。も。傳。り。し。中。豊。山。の。鐘。の。鳴。り。魏。楡。の。石。も  
よ。く。言。ふ。と。い。の。鐘。と。石。の。非。情。も。自。鳴。り。克。言。ふ。外。も。是。も。漏。物。也。と。然。る。奇。異。を  
做。さ。る。る。天。女。の。木。像。の。飛。去。り。も。自。足。不。由。て。思。へ。世。の。不。物。怪。変。化。の。人。の。一。念。の。致。所。  
天。地。も。動。ま。り。在。昔。唐。山。杞。梁。の。妻。の。深。く。良。人。を。失。き。故。に。城。是。が。為。小。神。也。と。い。ふ。  
善。惡。其。差。あり。と。い。ふ。世。の。人。の。一。念。も。多。く。証。が。さ。る。者。も。又。物。の。漏。り。靈。聖。あり。の。衣。も

稗香あり如し開と除去をがごとく薬をくは是を燻る。稗香立地を散失して迹を  
 尋べし力祢連の理と悟り。彼妖怪を對治し敵を滅しぬる日と傳て知る  
 の疑うとかと説れて通能樅二郎俱に感服をりける。當下正義押繪も感嘆  
 あり。賤婦に向て鷲尾和女郎の辨論いふ其名をばまじし。抑宿野那里ぞと問ひ  
 賤婦頭と掉て否奴家の名をばまじし宿野を告て何れぞ早且其春えかむぬる。茲より  
 路を南に取て箇様をふりぬる。今宵初更の左側阿旻寺の宿をえかへらぬとて  
 其正義押繪の強難て通能樅二郎共侶を欽び演別と告げぬ。いと遠くを俱に  
 後方を見え今もあけ賤婦の忽地見えざる。昔大刀身那池不棄求るとい  
 辨才天の化現ると悟り齊一合掌をて一霎時祈念を凝しけ。畢竟正義士二勇婦  
 の憶念神の示現とて後の話説甚麼を開て下回の解分るを聴けり。

新局玉石童子訓卷之二十九終

千代目吉

村田

清香  
 奇藥  
 梅の雲

日第一解の香清小  
 梅の雲  
 梅の雲

化瓶水  
 花橋

吉今  
 賣野  
 丁子屋平

